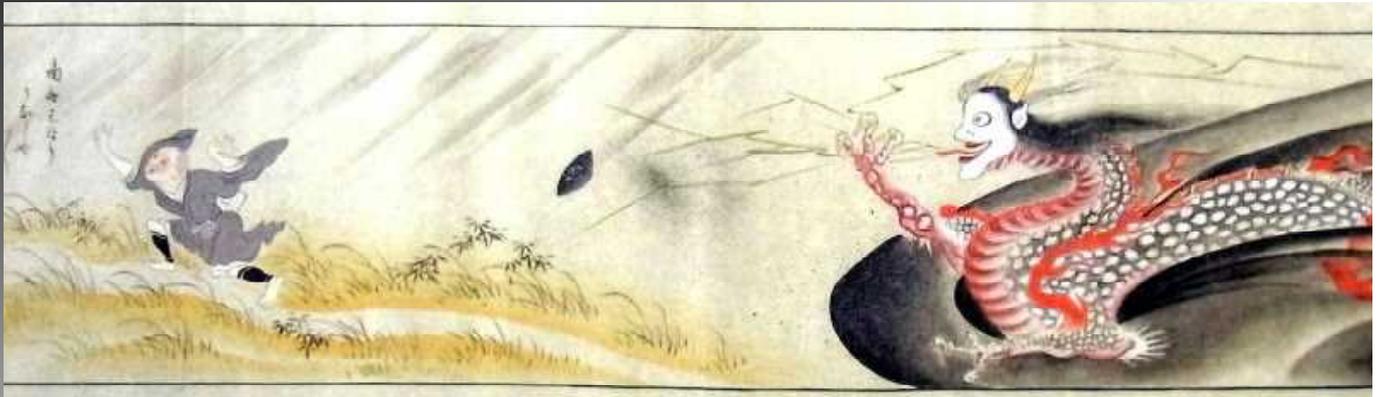


東洋大学井上円了研究センター新設記念シンポジウム

# 井上円了の妖怪学と現代

2015年3月21日(土・祝)13時～17時

東洋大学8号館7階125記念ホール



賢学草紙

## 井上円了の妖怪学

三浦節夫(国際井上円了学会長)「井上円了の妖怪学入門」

柴田隆行(井上円了研究センター長)「哲学からみた妖怪学」

## 記念講演

石塚正英(東京電機大学教授)「妖怪と人とのインターフェイス」

## シンポジウム「井上円了の妖怪学と現代」

パネリスト: 高橋郁丸(新潟妖怪研究所長)・島田茂樹(文学部非常勤講師)

討論参加: 石塚正英・柴田隆行(司会)

本センター・東洋大学博物館所蔵の妖怪に関する資料を展示

参加自由・事前申込不要・定員100名



東洋大学

「妖怪ウォッチ」が空前の大ヒットと言われるが、〈妖怪と言えば井上円了〉と言われた時代がかつてあった。井上円了は、1887（明治20）年の『妖怪玄談』に始まり、『妖怪学講義』全6巻、『妖怪学雑誌』編集、そして最後の著作『真怪』というように、まさに「妖怪博士」の名に恥じない業績を多数遺している。

しかし、井上円了は妖怪を近代啓蒙合理主義で駆逐した「ゴーストバスター」だとの印象が現代でも強く残っている。井上円了の著作を一度でもひもとけば、それがいかに一面的なものであるかは明らかであろう。

井上円了の妖怪学の概要を本学教授三浦節夫と柴田隆行が紹介したあと、記念講演として、歴史知学の提唱者でありNPO法人頸城野郷土資料室理事長を務める東京電機大学理工学部教授石塚正英氏が、フェティシズム、神々とのインターフェイス、妖怪とのインターフェイスなど歴史知の視点から妖怪について幅広く論じる。

シンポジウムでは、インド哲学ならびに仏教学の視点から井上円了の妖怪学を解明する文学部非常勤講師島田茂樹氏、井上円了の生誕地である新潟県で「妖怪は文化だ」として新潟の妖怪伝説を記録し普及する活動をしている新潟県妖怪研究所長の高橋郁丸氏に、それぞれの立場から話題を提供していただき、その後の討論に、記念講演講師の石塚正英氏と司会も加わり、井上円了の妖怪学に関する新たな研究の可能性を模索する。

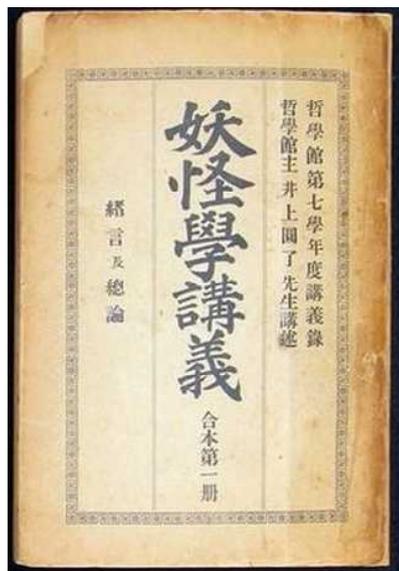
## お問い合わせ

東洋大学井上円了研究センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

TEL 03-3945-7564

ml-enryo@toyo.jp



コックリさん（井上円了『妖怪学講義』）